

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年5月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1172000331
法人名	有限会社 大陸商事
事業所名	グループホーム山吹
所在地	〒334-0005 埼玉県鳩ヶ谷市里677番地1 (電話) 048-287-0155

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年5月12日

【情報提供票より】(平成20年4月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	14 人
職員数	14 人	常勤 10人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.4人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり1,200円			

(4) 利用者の概要(4月18日現在)

利用者人数	14 名	男性 1 名	女性 13 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 60 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さいたまホームクリニック、赤井歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から徒歩8分、交通量の多い国道に面したホームであるが、広い敷地内には池や庭園があり、ホームの窓からは緑豊かな自然を望むことができる。工場を改築したホームの居室は、広さや造りが異なり、それらは利用者の個性を活かす居住環境にもなっている。「明るく元気で安心して暮らせるように」という理念がすべての職員に浸透し、日々のサービスに活かされている。利用者は併設のデイサービスの行事に参加したり、職員の自宅などを訪問するという逆デイサービスの試みに参加し、家庭的で豊かな暮らしをしている。本人や家族の思いを尊重し、希望により最期の看取りやグループホーム葬も行っている。代表者のリーダーシップのもとに職員同士のコミュニケーションも良く、利用者の思いを大切にサービスに取り組み、明るく和やかな雰囲気が醸し出されている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の結果は、運営推進会議や職員全員が集まる月1回の担当者会議に報告し、改善課題について話し合いを行った。包丁や危険物は鍵のかかる場所に保管し、リビングは夜間施錠するようにした。また、食事摂取量や排泄の状況について把握し、一覧表にするなどの改善を行った。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が評価の意義を理解し参加できるように担当者会議で話し合いを行った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成19年11月に第1回目の運営推進会議が開催された。会議では、ホーム設立の経過や事業内容、年間行事について報告し、意見交換を行った。逆デイサービスの試みは、訪問時の挨拶や気遣いなどホームでは見られない利用者の力が発揮され、利用者の生活に変化をもたらすなどの効果があることを報告し、ホームの取り組みの理解を求めた。終末期の看取りや家族との交流などについて、参加者から出された意見を参考に取り組みを検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	広報紙「山吹だより」には、ホームの行事とともに利用者の暮らしぶりも掲載し、月1回発行して自宅へ郵送している。また、利用者の状況に応じて個別に電話をしたり、写真や手紙を送り利用者の様子を伝えている。家族からの苦情や意見はあまりない。家族の来訪時には、利用者の状況を報告し、家族の意見を聞くようにしている。家族が意見を言いやすい関係づくりに努め、家族の意見は職員に伝えて話し合い、利用者のサービスに役立てるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域の自治会に加入し、公民館、保育園、小学校などの行事に参加して交流を図ったり、ホームの行事に地域の方を招待したりすることで、地域との連携に努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢者介護を通して必要とされる利用者や家族の役に立てることを使命にした法人の理念を受けて、地域密着型サービスの意義を確認し「本人の思いのままに過ごせる」ことをめざし、「明るく元気で安心してくらするように応援する」という事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	代表者は、理念について管理者や職員に伝え共有に努めている。担当者会議や日々の介護場面で、理念に照らした振り返りを行い、理念に基づいた実践が行えるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、公民館、保育園、小学校などの行事に参加したり、ホームの行事に地域の方を招待し、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が、評価の意義を理解し自己評価に参加し、外部評価の結果を受けて改善に取り組んでいる。外部評価で課題となった包丁など危険物の取り扱いについて検討し、危険物は鍵のかかる場所に保管することにした。また、食事摂取量や排泄の状況について把握し、記録する方法について改善した。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第1回目の運営推進会議を07年11月に開催した。会議では、ホームの設立経過や事業内容、年間行事、外部評価について報告し、意見交換を行ってホームの取り組みに理解を求めている。終末期の看取りや家族との交流について等、参加者から出された意見を参考に取り組みを検討している。		開催頻度は2ヶ月に1回を目指し、地域との交流を促進してサービスの質向上に役立つ会議になることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の社会福祉協議会からの依頼により、小学生や中学生のボランティア体験の受け入れを行っている。市の研修案内を受けて研修に参加したり、電話での連絡などにより連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームの広報紙「山吹だより」を月1回発行し、自宅へ郵送している。広報紙には、ホームの行事や利用者の暮らしぶりの他、代表者や職員の声も掲載されている。また、利用者の状況に応じて個別に電話をしたり、写真や手紙を送り利用者の様子を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪ねて来た機会をとらえて利用者の状況を報告し家族の意見を聞くようにしているが、家族からの苦情や意見はあまり聞かれない。家族が何でも言えるような関係づくりに努め、家族の意見は代表者や職員に伝え話し合い、利用者のサービスに役立てている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職が非常に少ない。併設するデイサービスの職員との人事交流、相互支援をする場合もあるが、デイサービスでの行事に日常的に参加し、職員とも馴染みになっているので入居者へのダメージはほとんどない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規程には、採用時研修は採用後1ヶ月以内、継続研修は年1回以上と明示されてある。2ヶ月に1回、ホーム内で全職員を対象にした勉強会を行っている。外部研修に参加した場合は、研修報告書を作成したり、会議で報告し、情報の共有に努めている。		職員の経験や習熟度に応じた段階的な研修を計画的に実施することが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市担当者の呼びかけで市内のグループホームの職員が集まり交流している。その他、同業者と電話で情報交換を行い、サービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居にあたっては、本人、家族との話し合いを行い、本人が納得したうえでサービスを開始している。通常、デイサービスを利用し介護施設に慣れ、職員ともコミュニケーションがとれてから入居するなど徐々に馴染めるような工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者の身体状況や生活歴などを十分把握し、利用者の得意分野などが発揮されるように努め、利用者と一緒に過ごし、学び合い、支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「本人の思いのままに過ごせるように」をモットーにして、できるだけ利用者の思いが叶うように努めている。利用者の思いを把握しにくい場合は、日々の行動や表情から汲み取り、利用者本位の視点に立った話し合いをしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時の情報や日頃の関わりのなかから、本人や家族の思いを把握し、利用者がより良く暮らすための課題を明らかにして介護計画を作成している。本人の意向や身体的な状況など、個別性を反映させた実践可能な具体的な介護計画になっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>全職員が参加する担当者会議で、月に1回は話し合いをして見直しを行っている。そのほか、利用者の状態変化や状況に応じて随時見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望により専門医への受診支援をしている。また、馴染みの職員の自宅を訪問して数時間を過ごす逆サービスの試みは利用者に喜ばれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関の医師により、月2回の往診が行われている。その他、本人の希望によりかかりつけ医への受診を支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、本人、家族と十分話し合い方針を決めている。入院が必要になった場合は、3ヶ月まではホームに籍を置き、入院施設との連携をとりながら早期退院に向けた支援をしている。また、本人や家族の希望により最期までの看取りを行いグループホーム葬も行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所内の勉強会などでプライバシー保護の重要性についての理解を深めている。職員は利用者の誇りやプライバシーを大切にされた対応をしている。個人情報の記載された記録類は鍵のかかる場所に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は自分の希望を職員に伝え、職員は利用者の思いができるだけ叶うように工夫している。デイサービスの行事への参加は、利用者の思いを尊重して利用者が決定するように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが、食事の準備から片付けなど利用者は職員と一緒にしている。卵を溶いたり食材をすり下ろすなど、利用者は楽しみながら行い、食事の際は、利用者と一緒にテーブルを囲んで楽しい雰囲気づくりをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイサービスの利用者との兼ね合いで入浴日は週に2回になっており、入浴しない日には毎日清拭をしている。その他、汚れた時は随時シャワー浴などを行っている。自分から進んで入浴を希望する利用者は少なく、職員に促されて入浴する人が多いが、入浴後は気持ちよさそうな表情が見られる。		デイサービス利用者との兼ね合いもあると思うが、週3回以上入れるような体制の工夫が望まれる。利用者の生活習慣やその時の希望を大切にされた支援の可能性について検討し実践されることを期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意な分野で力が発揮されるように支援している。料理の手伝い、テーブル拭き、タオルたたみ、お茶入れなど職員の支援を受けて行っている。デイサービスの行事には自ら進んで参加し楽しんでいる。職員の自宅訪問や近隣の菜園での収穫など、多様な楽しみ事の場面がある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望により近隣を散策したり、ショッピングセンターに出かけたりしている。職員の自宅を訪問したり、地域の公民館や学校の行事などにも参加している。歩行困難な利用者の場合は、車椅子での支援も行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず自由な暮らしを支援している。国道に面したホームの敷地内への出入り口にはセンサーが設置されており、事故を防止する工夫がある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回防災避難訓練を実施している。そのうちの1回は消防署の協力を得て、消火器の使用方法などを含めた訓練を行っている。緊急連絡網はある。		地域への協力要請、夜間想定訓練、災害に備えた備品の整備などの取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立になっており、食事摂取量の把握をし記録している。利用者の体調に応じた食事内容とし必要に応じて介助している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中に静かなBGMが流れ、居心地良い共用空間になっている。季節感のある貼り絵が壁に貼られ、木漏れ日が窓から差し込み不快な音や光りもない。桜の木の手すりなどもあり、五感を心地よく刺激する配慮が見られる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた馴染みの家具や日用品、本などが持ち込まれ、本人が過ごしやすい居室になっている。		